感染症に気をつけよう！

2019年【9月号】

横浜市内の感染症 流行状況

感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】← クリック
腸管出血性大腸菌感染症*	多発	横ばい	報告が多いです。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.8 号】【ちらし】
風しん*	多発	横ばい	今年報告された患者の集計では、40代の男性を中心に多い状態です。【'19.4 号】【予防接種】
RS ウイルス感染症*	やや流行	横ばい	例年、冬に流行していましたが、2017年以降は夏から秋にかけて増加しています。
手足口病*	警報	減少	過去の流行を上回って推移していましたが、8月以降は減少しています。【'19.7 号】

今、気をつけたい感染症 腸管出血性大腸菌感染症

感染経路や症状は？

● 病原性大腸菌（O157 など）に汚染された物を食べたり、患者の便で汚れた物品から菌が口に入って感染します。

● 症状は、腹痛・下痢・血便・おう吐などです。重い合併症を起こし、時には命に関わる場合もあります。 ● 疑われる症状が出たら、下痢止め薬の使用などを自分で判断しないで、早めに受診してください。

予防方法は？

● 手をしっかり洗いましょう*。

トイレ後、調理前、食事前、下痢をしている子どもや高齢者の排泄物の世話をした後などに。 ● 生野菜はよく洗いましょう。 ● 食品はよく加熱しましょう。中心部まで、75℃ 1分以上が必要です。 ● 調理器具は使用のたびに洗剤でしっかりと洗いましょう。 ● まな板やはしは、生肉などを扱うものとそれ以外に分けましょう。

参考ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ *:厚生労働省 **:国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】